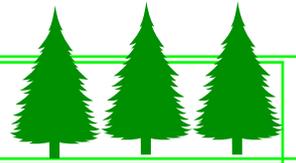




みつぎ便り



第229号 10月号 令和7年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ヒメジャノメ

その名前の通り大きな二つの目玉つまり蛇の目が二つ羽根模様にある三〜四センチの薄茶色の蝶です。

九州から北海道のどこにでもよく見かける蝶ですが、花の蜜を吸うわけではなく、葉っぱや枝にふわふわとゆつくりと移動しています。飛び廻るだけで、これという武器を持たないこの種類の武器は大きな目玉で敵を睨みつけて威嚇しているようです。又、他の蝶のようにカラフルな

色合いをしていないので蛾の仲間と間違えられますが、日本では蝶の仲間です。というのは、蛾と蝶を区別していない国も沢山たくさんありドイツ、フランス、スペイン等もそうです。

何事もきちんとするのが好きな日本人の国民性でしょうか。面白いと思いませんか。
(静)

メヒシバ

メヒシバ(雌日芝・女日芝)はイネ科メヒシバ属の植物です。身近にごく普通に見られる、イネ科の植物です。細い茎で地表を這い、立ち上がった花茎の先に、数本の細い穂を放射状に伸ばします。その形がややオヒシバに似ていますが、ずっと優しげであることからの名と思われるます。メヒジワ、メシバとも呼ばれます。

日当たりと乾燥に強く、繁殖力が旺盛な一年生雑草で茎が地面を這って節から発根し、又すぐに再生する生命力を持つ一方、種子をたくさんつけることで広範囲に拡散します。

メヒシバが発芽できる温度は、一五〜四五℃くらいまでで、最適温度が三〇〜三五度と他の雑草に比べて



高いので、生え始める時期は他の雑草よりも遅く、夏場の繁殖力はとても高い雑草になります。

また、他の植物の生育を阻害するアレロパシー物質を根から出すことが知られており、夏場に草刈りをせずに放任していると最終的にはメヒシバばかりになっていくということもよくあります。

メヒシバの花言葉は侵略者と情緒不安定です。メヒシバはその繁殖力の高さから、雑草界の女王とも呼ばれ、成長し過ぎると他の植物の生育を阻害する侵略的な性質を持つことに由来しています。
(千)